

幾多の缺漏あり、更に廣く各地に亘りて遺物遺蹟の根本的調査を行ひ、その上に建設せざるべからざる事を感せしむるものなり。

余は内藤教授、富岡講師及び山崎氏の好意に依是が報告をなし得たるを喜ぶと共に今後一層此の方面の調査研究に従はん事を期す。(六月十四日稿)

ナイル河上の人

文學博士 坂口 昂

昨年の春、アルゴースの森の二月の砲戦に、若きジャン・マスペロが祖國のために斃れしを聞きたり。ジャンはガストン・マスペロの子、未來あるピザンツ研究家なりしと。愛兒の不幸の如何に老父の胸を痛めたりけむ、今年この夏、又斯の有名なる埃及學者の訃を傳ふ。六月三十日巴黎、博士が晩年の名譽の勤めすなる金石學士院の開會に、或る報告にと起ちて未だ數語を發せざる

に、後ろざまに倒れて復た起たず、行年七十一。思ひ出多きナイルの國よ。今は早や五年以上の昔となりぬ。その折、知り合ひし埃及學者のうち、深き印象を残したる一人はルクソル河岸のマスペロ博士なりき。吾が紀元節、ナイル河畔觀光の好シーズン、余はクレオパトラの舊都に上陸しき。翌カイローに入り博物館に博士を訪ふ。上埃及出張中とてあはず。余は事務員の好意により上埃及の遺物、觀覽券壹葉を惠まれぬ。抑もカイローより上流の觀光客は先づ博物館内古蹟局に就き、金百二十ピアスタを拂ひ上記の如き券を貰ひ、場所毎に提示すべきなり。余はカイローに數日を費し型の如くピラミッドにも登りぬ。いよく、平調なるリビヤの沙丘を左右に、椰子と駱駝と三角帆との河岸の、姫路より東京までに等しき哩路を一日に走りて上埃及の中心ルクソルに着しぬ。さて翌日テーベの大遺蹟見學といふに、始めてかの肝要

なる觀覽券を遺れ來りたるを知り、大に困却す。ガイドのマスベロ博士この地に在りとの賢しき注意に、ごまかくも往訪すれば、博士の宿が旅館にあらで、ルクソル殿前に繋げるナイル特用の可なり大なる小蒸汽船なるには、先づ流石に全埃及の古蹟局總長の出張とこそは領かれぬ。博士の家族こゝに起臥し、従僕船夫の同勢十數人を従へ悠悠上埃及の古墳の間を巡邏し廻はる、何ぞその風流にして用意周到なるや。余は船に入り刺を通すれば、出來りし六十餘の好紳士、小柄ながら圓々ふどり、半禿尙ほブリュネットを保ち、愛嬌ある口元から出る英語の、流暢ながら稍異調を帯べる、何となくローマニツクの匂ひす。これ博士なりき。げに博士は巴里兒ながら兩親はイタリヤ人なりき。余やがて差しのたり當惑の一條を話すに、博士いご心やすげに余の面前にて券一葉に自署して余に與へ、尙ほ余の問ふがまゝにテーベの遺蹟見學の順

序や、その内特に見逃すべからざる陵墓などを、余の手にせる紅表紙本に一々十字印して注意せられぬ。鉛筆の跡尙ほ存す。この時余の喜悅いふべからずこれ一券の恵みに、單に拾金あまりをセーヅし得たる故にあらず、實に一大學の一員として認められて萬里見學の空からざりして在りき。

Sir Gaston Maspero (1846—1916) 幼より穎悟、夙に埃及形象字に通じ、一八七三年齡二十八歳にしてコレージュ・ド・フランスの形象字講座を擔任せり。是れ本と埃及學の開祖シャンポイヨンの爲めに設けられ、有名なるルージェ之に据はりたる跡にて名譽の極みなりき。一八八〇年埃及に渡りてマリエットにつぎて古蹟局總長に任じ、一八八六年病のため埃及を去りしも、一八九九年より一昨年まで再びその任に在り、現今のカイロー博物館の經營、その目録の大成、カルナク發掘等功甚だ大なり。一九〇九年英國政府因て士爵に叙す。

著書頗る多し。史書としては『東方人民の古代史』尤も行はれ、又一八九五—一九九年出版の『古典東方の人民の古代史』三冊あり、セース博士の監修の下に『文明の曙』『國民の衝突』『帝國の凋落』と題して英譯せられ、エヅワード・マイヤの古代史出現前には稀有の好證典たりき。

批 評

大類博士の『西洋時代史觀

中世』を讀む

文學士 植村清之助

本邦史界に於て、西洋史學の分野は累年不振寂莫の境を脱し得ない。公刊の新著も多くは教育上の參考書か際物的性質のものであつて、學術上價

値の高い研究が發表せらるゝ事は甚だ稀である。これは一面斯學の專攻者が尠く、従つてこれが論究に任ずる學界が殆ど認められないに由るのであるが、更に深い理由は、一般に、西洋史學の研究が我邦人によつて無意義なことであり、徒勞に過ぎないと信せられて居るからであらう。即ちその研究の基礎となるべき史料を蒐集することの困難な我國に於て、西洋史學者が今日の進歩したる科學的方法に基いて根本研究の成果を擧ぐることは到底不可能事である、それで斯學の知識は實用上教育上肝要なものであり、又學術上に於ても國史學に對し比較研究の爲に必須缺くべからざるものではあるが、其獨立的學問としての存在の意義は甚だ薄弱であつて、これが專攻研鑽は畢竟徒爾である、斯様に考られて居るのである。この説は一應道理なやうではあるが、余輩はこれを以て史學の研究に二段のプロセスがあることを考へない議